
平和な世界

OB

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平和な世界

【Nコード】

N5239C

【作者名】

OB

【あらすじ】

あれから数年。キヨンは社会人となる。ある日、キヨンは長門と再会した。

この子が本当に涼宮ハルヒなのかはわからない。だが、この子はハルヒだと俺は確信している。根拠はないさ、けど俺がそう思っているのだからそうだ。

自分が信じたらそれが真実だ。

「キヨンは今幸せ？」

上の空の状態だった俺の視界にハルヒの顔が突然出てきた。

「…。普通だ」

驚く表情を抑え、質問に返答する。

あれから数年が経つ。俺は孤児だったハルヒを引き取る。

俺はもう立派な社会人で普通にサラリーマンをやっている。

ハルヒは中学生だ。可愛らしいセーラー服姿についてい見惚れてしまう。

まあそんなことより、この前母校近くを散歩していた時に長門と再会した。

相変わらず格好は制服だった。

なにやらあの世界を創造した奴を見つけたそうだ。久しぶりに長門の部屋に入った。

変わらない部屋に俺は懐かしさを感じた。

そして、長門は説明を始めた。

「あの世界を創造したのは私と同じ情報統合思念体によって創られた有機生命体。涼宮ハルヒを消滅させようとして実行。結果、涼宮ハルヒ本人を消滅させた。しかし、もう1人の涼宮ハルヒが出現したため失敗した」

淡々と言い終えてくれたが、俺は理解できなかった。

「私と同じ有機生命体は私のバックアップによって消滅。涼宮ハル

ヒを消滅させた理由は不明」
以上、長門から聞いた情報。

今日俺は浜辺で長門と一緒にコーヒーを飲みながら海を眺めている。
時刻は午後9時。

「長門、今のハルヒを見てどう思う？」

「現在の涼宮ハルヒは過去の涼宮ハルヒと同じ存在」

そうか。俺は中身が空っぽになった缶をゴミ箱へ投げ入れる。見事にゴミ箱へ入った。

携帯電話のメニュー画面からメールを開くと、3件のメールが届いていた。どれもハルヒからであった。

内容はすべて「早く帰ってきてね」という同じ文通であった。

いつの間にか長門は居なくなっていた。代わりに120円が置かれていた。

「はぁー、帰るか」

溜息を吐きながら俺は夜道を歩く。もちろん120円はポケットの中。

夜道を歩いていると、人影がこちらに近づいてきた。

「ハルヒ？」

「遅い…、眠い」

確かめる暇も無く俺は抱きつかれた。だが、声はハルヒである。

「えーと、ただいま？」

一応言っところ。

「おかえり…」

今日も平和だ。ハルヒの頭を撫でながら夜空を見上げた。

f i n

(後書き)

読んでいただければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5239c/>

平和な世界

2010年10月28日07時26分発行